

2011年度 第13回大阪損保革新懇総アピール

革新懇の出番 「私たちが状況をつくる」決意で

私たちは今日から結成13年目の活動を開始します。

昨年8月の総選挙で国民は自公政権に歴史的な厳しい審判を与え、政権交代が実現しました。当初、鳩山政権はマニフェスト路線を実践する姿勢を示し、私たちも革新三目標実現の方向と重なっているかのような期待感を持ちました。しかし、民主党政権は政治とカネの問題、財源問題、景気雇用対策、米軍基地問題など期待を裏切りました。鳩山政権から菅政権に変わりましたが、官僚・財界・アメリカのいいなりの政治姿勢で、自公政権時代と大きく変わるところはありません。

いま、問われていることは、経済のひずみを正し、国民の暮らし優先の経済政策を実現すること、基地のない沖縄と日本を実現すること、核兵器のない世界を実現することなどです。

損保では今年から三大メガ損保グループ体制に入りました。互いに覇権を争うという他産業でも例のない産業です。この体制は契約者・従業員・代理店のためでなく、ひたすら「規模の拡大と効率化と利潤第一主義へ」突き進んでいく方向です。今後、さらに「統合から合併へ」という情勢も強くなっていくと思われまます。労働組合をめぐっても流動的な情勢も予測されます。

損保産業に問われていることは規模と利益の追求を求め、競争のバーを上げることではなく、国民生活に軸足を置いた産業への転換の方向です。契約者へのサービスを一層提供し、損害保険に働く従業員と代理店を大切に、国民生活の安心と安全に役立つネットワーク産業として役割を發揮する方向です。あらためて、私たちは座標軸と労働組合との関係を確認します。

座標軸は①損保は「平和産業」である。②損保は国民生活に密着した「セーフティネット産業」である。③損保は「生きがい・働きがい産業」である、の三点です。労働組合との関係は「私たちは損保のすべての労働組合と組合員が雇用と労働条件を守り、この産業の民主化のために奮闘されるよう呼びかけます。そして要求を掲げてたたかう労働組合・労働者とは協力・連帯し、行動します」です。

私たちはこの1年も様々な取り組みを進めてきました。

2008年から3年続けてシンポジウム『損保産業の社会的役割を考える』を開催、契約者と最も接点の多い代理店問題と共済問題を取り上げ、シンポジウム講演録の配布活動を通じて内外に問題提起をおこないました。2月には東京海上日動社の外勤社員制度廃止の闘いに勝利しました。9月には高田橋さんのパワハラ裁判闘争に和解を勝ち取りました。毎回の裁判に40から50名の会員が参加しました。大阪の職場革新懇連絡会は今年から世話人体制をとることになり、大阪損保革新懇と国公革新懇が共同代表を務めています。10月16・17日山梨県甲府市で開催された全国革新懇全体集会で野村代表は大阪の活動報告と全国での職場革新懇運動の強化を実現しようと呼びかけました。

私たちの組織は現在、8つ会社の職場の仲間と代理店の340名が会員として参加しています。現役の会員は新入社員から管理職まで、OBも多様な経験者を擁しています。若い仲間や今まで会員に迎えることが難しかった代理店の会員が増えてきています。この要因は、もちろん仲間たちが近くの仲間に声をかけるという基本的な取り組みが第一にあります。同時に三つの座標軸が現在の政治・経済情勢と損保産業の情勢と職場の仲間の気持ちや要求とマッチして、多くの仲間の共感・賛同を得ているからだと考えています。この12年間に積み重ねてきたさまざまな活動に確信を共有したいと思ひます。

日本の政治経済情勢は革新懇運動がもっと広がり、強まることを求めています。全国革新懇交流会で特別発言をした品川正治代表世話人は「おれたちが状況をつくる」—その覚悟と決意で行動しよう—と呼びかけられ、参加者全員は新たな決意を固めました。新年度、私たちもこの呼びかけに応じて活動しましょう。私たちの存在と活動や提言を多くの仲間が賛同してくれていますが、損保の職場や労働者・代理店・共済の仲間のおかれている状況を考えるとき、もつと会員を増やし、質量にわたる活動の強化と充実が問われています。会員はまだ300人台です。あなたの周りのもう一人の仲間へ声をかけてください。もっともっと新しい会員を迎えましょう。みんなで今年も奮闘することを誓い合いましょう。

第13回大阪損保革新懇総会